



株式会社千石

代表取締役社長 千石 唯司 氏

柔軟な発想をスピーディに実現。
大手では難しい
斬新な発想の機器を生み出し
利用者の生活を豊かにする！

PROFILE

1948年加西市生まれ。1971年に株式会社千石に入社し、1989年代表取締役に就任。1993年に千石賽業香港有限公司を設立したのをきっかけに、以前より興味があった中国古代鏡などの古美術の収集にさらに力を注ぐようになり、そのコレクションの一部は県に寄贈され公開されているほど。2010年に加西商工会議所の会頭に就任するなど公職でも忙しい日々を過ごしながら、休日にはゴルフを楽しむ。



本社外観

—「ひょうごオンリーワン企業」に選ばれたことをどのように感じられていらっしゃいますか？

「ひょうごオンリーワン企業」に認定されたことにより、弊社の特許技術である「遠赤グラファイト」の独自性や将来性が再認識できました。サンTVで放送された認定式の様子を社内で共有している他、授与された認定書と記念の盾を本社ショールームの最も目に付く場所に飾らせていただいています。来社されるお客さまの目に留まることも多く、良い宣伝材料として活用させていただいています。また、今後、「遠赤グラファイト」を搭載した商品のラインアップ拡充を計画しているのですが、今回の認定によって、開発に関わる社員の大きな自信につながったと思います。

—「遠赤グラファイト」の優れた点というのを教えてください

今回の認定の決め手となった熱伝導に優れた「遠赤グラファイト」は、特許技術であり、弊社でしか造ることができません。その熱源となる「グラファイトシート」は、イミド結合を含む高分子素材(樹脂)である「ポリイミド」のシートを熱分解することで、炭素から生成されている元素鉱物「グラファイト」に結晶化した素材です。熱伝導率が鉄の約10倍、銅の2~4倍もあるため、電源を入れるとわずか0.2秒で1300度という高温に達します。さらに一般的なヒーターよりも短時間で最大温度に達することもできます。

弊社では、このような優れた温度特性を活かして、まず暖房機「グラファイトストーブ」を開発し「0.2秒瞬間暖房」をメイン訴求として商品化しました。そして、さらなる用途の拡大を模索する中で、高温で一気に焼き上げることが、美味しさに良い影響を与えることを知り、調理商品への進出を決めました。

—「グラファイトトースター」の開発に当たって苦労されたことがあればお聞かせください

グラファイトヒーターの優れた特性である瞬間発熱とハイパワー自体は、大変優れた技術です。しかし、乗用車の性能・評価で例えれば、良いと言われる車は、素晴らしいエンジンが搭載されているだけでなく、いかに乗り心地が良く、安心して快適に運転できるかということなど、総合的な判断に寄ると思います。それと同様に、トースターにグラファイトヒーターを搭載する際も、グラファイトヒーターの強み、瞬間発熱・ハイパワーが逆にトーストのムラ焼けや表裏のアンバランスを起すなど、決してプラス面だけではありませんでした。トースト以外の様々なグリル料理にもその良さを発揮できるようにするため、現在の製品に仕上げるまでのチューニングには、膨大な実験と時間・根気が要りました。

今までにない『本当に美味しい外カリ中モチのトースト』を実現した画期的なトースターに辿り着くまでには、技術者達の執念はもちろん、それを支える周りの各スタッフたち、そして経営層を含めた社員達の総合力、結束力の賜物だと思っています。

—その他には、どのような機器を開発・製造されていますか？

よく知られているのは、90年以上愛され続ける石油暖房機の「ブルーフレーム」だと思っています。外観こそ昔からあまり変わっていませんが、時代の流れと共に変化する諸々の規格に適合させるため、最新の石油暖房機で培った省エネ等の技術を活かし、その中身を進化させてきました。また、こうした商品に代表される「独自の技術」と、どこか懐かしいデザインを融合させた商品を「アラジン ブランド」として、お客さまにお届けしています。



展示スペースに置かれた「ひょうごオンリーワン企業」認定書

—斬新な製品を生み出すために、こだわっていることを教えてください

独自の技術を持つ企業は、世の中に数多く存在します。そうした中で、企画・開発から製造、販売、さらには修理やコールセンターといったアフターサービスまで、全ての商品ライフサイクルを自社内で対応する「一貫体制」が弊社の強みであると考えています。

また、「消費者目線」も重要視しています。私自身も、従来商品や試作品を徹底的に使い込み、問題点や弱点を洗い出します。その他、社内には新製品のモニター評価制度があり、これを活用して社員も同様に「消費者目線」による評価を実施し、問題が見つかった場合は、改善できるまでは次のステップへ移行しません。こうしたことは、開発日程にも影響を与えるため、発売日の変更（遅延）を迫られることになる場合もありますが、お客さまの期待に応えるには必須と考え、徹底して取り組んでいます。

さらに、弊社で開発している製品の中心となっているのは調理器や暖房器です。その熱源となるエネルギーは、電気・石油・ガスなど多岐に亘っているため、手掛ける製品は多種多様です。多くの製品は独自で生み出したのですが、中には、他社で眠っていても弊社なら活かせるだろうと考えて手に入れた技術もあります。「遠赤グラファイト」もそうで、幅広いカテゴリーの商品開発に携われることも、弊社の強みの一つだと思っています。



アラジンブランドのグラファイトトースター



—オンリーワン企業であるために力を注がれていることは何でしょうか？

商品開発に関する情報を社内で共有することはもちろん、組織や役職、担当の業務にとらわれず、自由闊達な意見交換ができる雰囲気づくりを心掛けている点です。従来の発想の枠に捕らわれることなく、柔軟な発想でものづくりに取り組むような社風づくりにこだわってきました。そして、自分の意見や考えを主張する根拠となる知識の習得やアップデートについては、日々、自己啓発を促すと同時に、必要に応じた社内外の研修制度の活用や各人の資格取得に対する支援制度の整備にも力を注いでいます。

—社会的なニーズやシーズを捕らえている工夫もされています

常に「現場・現物・現実」を自分自身で確認する『3現主義』の徹底を心掛けています。私は普段、本社にいます。ここは、執務の場ですから、商品開発をはじめとする状況把握は比較的容易です。しかし、距離を有する中国工場についても、毎月1度は必ず現地へ出向き、私自身の目で現状を確認するようにしています。来年からはフィリピン工場が加わり、スケジュール調整に苦労するかも知れませんが、この取り組みは継続して実施するつもりです。

また、毎年春に開催する新商品の発表会も継続して行っています。販売先となる国内外のお客さまを中心に、マスコミ関係者やメーカーなどをお招きして、関係者の率直な意見を求めます。厳しい評価を与えられることもありますが、その場合も「その道のプロの声」として真摯に受け止め、改善課題の1つとして取り組みます。

—今後の展望をお聞かせください

弊社の成長エンジンの1つは「遠赤グラファイト」だと考えています。この特許技術に裏付けされた圧倒的な優位性を活かせる商品が、まだまだ多くあるとはずです。2017年の4月に発売した「煙を出さずに、本格炭火の美味しさ」を簡単に提供できる「グラファイトグリラー」もその1つですが、引き続き商品のラインアップ拡充を、年に一つでもいいので進めて行きたいと考えています。

その他、生産拠点を、現状の日本・中国(2工場)に加えて、2018年春よりフィリピン工場も稼働させることで増やします。それぞれの地域の強みを活かした商品の供給体制により、グローバル展開のさらなる加速を計画しています。

—最後に「オンリーワン企業」を目指す企業へのメッセージをお願いします

オンリーワンというキーワードのとおり、今回の認定により、他社にない自分達が自信を持って世の中に提供できる技術や仕組みといった確固たるコアコンピタンスの重要性を改めて感じています。それに加えて、職場が自由闊達な雰囲気、社員が前向きにどんどん仕事に取り組んでいる。そういったエネルギーに満ち溢れる企業風土が大きな後押しとなって、オンリーワン技術から画期的な商品を生み出せていると思います。さらに、今までとは違う世の中へのアピールが認知され、ブランド価値向上に相乗効果を発揮するなど、連鎖反応のようにつながり高まっていく。そうした結果、オンリーワン企業になれるのだと思います。



アラジンブランドの製品や大手メーカー商品のOEM製造を手掛ける 日本品質の様々な製品を開発・製造している

グラファイトトースター(ブラック)



グラファイトグリラー



株式会社千石は、加西市に本拠を置き、現在、中国の2カ所に生産拠点、アメリカに販売拠点を置いています。さらに2018年春には、フィリピン工場も稼働する予定です。このような国際的な広がりを持ちつつ、「アラジン」と「グリーンウッド」という2つのブランド製品を軸に、大手メーカー商品のOEM製造も手掛けています。OEMとは他メーカーのブランドで製品を開発・製造することですが、そのためには高い品質を維持し、納期に応える能力が求められます。千石では現在、日本を代表するような大手メーカーの発注を受けて、各種ストーブや石油ファンヒーター、オーブントースター、カセット式コンロ・ヒーター、給湯器、ウォーターサーバーといった数多くの家電製品や調理器具を製

造しています。その強みは、部品の製造だけを手掛けるのではなく、製品の企画から開発・設計、金型製作、製造、出荷まで、全てを自社内で手掛ける一貫生産体制が実現している点です。また、それらを、国際的な信頼がある『日本品質』で提供している点も強みとなっています。

自由闊達な社風の中、自分のやりたいものづくりができることこそが、独自の製品を開発・製造する大きな要因と言えます。今後も、大きな可能性を秘めている「遠赤グラファイト」の特性を活かして、例えば、電気自動車(EV)のスポット暖房への応用など、家電だけに留まらず、独自製品の幅を広げて行きたいと考えています。

開発に至った経緯

1953年に、金属プレス加工メーカーとして創業した株式会社千石。モットーに掲げている「顧客第一」、「品質重視」のとおりに、高い技術力で生み出す高品質・高性能な製品が広く認められ受注数を伸ばしてきました。そして現在は、家電製品製造事業まで多岐に亘る事業を手掛けています。そうした中、新しい可能性を生み出すために「遠赤グラファイト」に着目し、従来の使い方に縛られない自由な発想で「アラジン グラファイトトースター」や「アラジン グラファイト グリラー」を生み出しました。

独自性

熱伝導性が高く、航空・宇宙開発に欠かせない高分子フィルム(ポリアミド)を単結晶に近い構造に仕上げたグラファイトシートの利用により、0.2秒瞬間暖房をはじめ、遠赤効果も高く、指向性も強いという、全く新しい暖房機器を生み出しました。遠赤グラファイトの優れた特性を、調理機器に活かして造り出されたのが「アラジン グラファイト グリル&トースター」です。独自の技術を駆使し、2年間かけてトースターを美味しく焼き上げる技術を開発して製品化しました。続いて、煙が出ず、旨みを逃がさなくて、とてもヘルシーな「アラジン グラファイトグリラー」を生み出しました。

今後の展開

遠赤グラファイトヒーターを用いた「アラジン グラファイトトースター」も「アラジン グラファイト グリラー」も好調な売れ行きを見せていることもあり、今後も、遠赤グラファイトの特性を活かした新製品を毎年、少なくとも1点は投入して行き、ラインナップの拡充を進めていく予定です。また、中国をはじめとするアジア圏でも高価格帯の製品が好調な売れ行きを示していますので、今後は海外の生産拠点を拡大し、よりグローバル化を進めます。

TOPICS

2018年フィリピンで新工場を稼働させ 東アジアを中心に海外への販売拡大を目指す

現在も中国2カ所に製造工場を有していますが、今後、さらなる成長が期待できる地域ということから、より地元のニーズに応えた製品を開発・製造するためにフィリピンに新工場を建設。2018年春から稼働しています。これにより、日本(本社)、中国(東莞・惠州)の既存工場とともに、三極製造体制が実現し、よりグローバル化が加速されます。



東莞千石家電有限公司

売り上げ好調なグラフィートを使った 新製品を開発し展示会にも積極的に参加

千石では、グラフィートトースターが日本に続き中国でも高評価を獲得したことを受けて、韓国・台湾での発売を決めており、更に欧米への展開も検討中といったようにグローバル展開を推進中です。また、グラフィートグリラーについても、同様にグローバル展開を進めています。

一方、こうした新製品を世間に広くアピールするため、BtoB業界への参入を視野に入れて、2017年2月に東京ビッグサイトで開催の厨房設備機器展に初参加。好評を得たこともあり、2018年2月に開催される同展示会にも出展しました。



千石家電(惠州)有限公司

沿革

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1953年 | 三洋電機(株)二次下請工場としてプレス加工開始 | 1997年 | ISO9001取得 |
| 1963年 | 法人組織に改め千石鉄工(株)となる | 2003年 | 東莞千石家電有限公司を開設し、中国2工場体制となる |
| 1977年 | 電気用品製造事業者登録により
家庭用電化製品の製造に着手 | 2005年 | 「アラジン」ブランドを取得し、「アラジン」を自社ブランドとして
石油ストーブ・石油ファンヒーターの販売を開始する |
| 1993年 | 新本社事務所・工場を建設、社名を現在のものに変更、
千石家電(深セン)有限公司を開設し中国での生産を開始
する、香港事務所開設 | 2008年 | エコアクション21認証取得 |
| 1994年 | ロサンゼルス事務所開設 | 2012年 | 千石智貿易(上海)有限公司設立 |
| | | 2017年 | 「ひょうごオンリーワン企業」に認定 |

会社概要

所在地 〒675-2462
兵庫県加西市別所町395
電話 0790-44-1021
FAX 0790-44-2191
URL <http://www.sengokujp.co.jp/>

従業員数 184名(2018年1月)
資本金 9,600万円
設立 1963年1月
(創業1953年)
代表取締役社長 千石唯司

事業概要

アラジン石油ストーブ・ファンヒーター・オーブントースター・電気ストーブ等の製造・販売、家電製品・調理器具のOEMメーカー及び住宅設備機器の部品製造。